

## さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会 令和6年度第2回会議 会議結果

- 1 会議日時 令和7年2月28日（金）18：30～20：10
- 2 会議場所 さぬき市寒川庁舎 多目的ホール
- 3 出席者 [委 員] 南 篤・植村麻里・宮本明子・宇山真奈美・穴田美知子  
・都築昌悟・清原真規子・辻よしみ・中川勝幸  
[事務局] 木田恵美子（大川地区医師会在宅医療介護連携支援センター相談員）、真部哲男（課長）・伊藤英樹（所長）・藤田宏江（課長補佐）  
[傍聴人] 0人
- 4 議 題 （1）令和6年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について  
（2）令和7年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について  
（3）意見交換 ACP（人生会議）普及啓発について
- 5 資 料 さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会令和6年度第2回資料

## 6 会議要旨

| 発言者   | 意見概要                                                                                                                                      |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (事務局) | <p>(開会)</p> <p>本協議会は、地域の医療・介護関係者に参画いただき、在宅医療・介護連携の課題の対応策についての検討することを目的として設置している。</p>                                                      |
| (会長)  | (南会長挨拶)                                                                                                                                   |
| (事務局) | 会長がこの会議の議長となるため、議事の進行は南会長にお願いする。                                                                                                          |
| (議長)  | <p>(議事進行)</p> <p>議題（１）令和６年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について、事務局から説明を求める。</p>                                                                        |
| (事務局) | <p>(事務局説明 議題（１）令和６年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について、資料より説明を行う。在宅医療・介護普及啓発講演会、医療・介護関係者の研修会等について、追加説明を行う。)</p>                                       |
| (議長)  | 意見や質問があればお願いする。                                                                                                                           |
| (委員)  | 「安心シート」に関連して、救急時に家族がいないと救急車にケアマネの同乗をいわれ、病院でも待機をいわれ、応じている。「安心シート」に情報を追加するなど対応できないか。                                                        |
| (事務局) | <p>地域包括支援センターも同様の対応を求められ応じている。病状説明など病院の事情もあると聞いている。「安心シート」は、駆けつけた人が緊急時の対応を迅速に行うために作成したもの。情報共有については、マイナンバーカードなど医療DXの取り組みもあり、情報収集に努めたい。</p> |
| (委員)  | 病院では、救急搬送時に、病状説明等でどなたかの同席を依頼している。                                                                                                         |
| (議長)  | <p>その他に、意見や質問はないか。</p> <p>ないようであれば次に進める。</p> <p>議題（２）令和７年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について、</p>                                                     |

|       |                                                                                                                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 事務局より説明を求める。                                                                                                                                                                                                   |
| (事務局) | (事務局説明 議題(2) 令和7年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について、説明する。)                                                                                                                                                                |
| (議長)  | この後の意見交換をとおして、質疑としたい。                                                                                                                                                                                          |
|       | 議題(3) 意見交換について、事務局より、「ACP(人生会議)の普及啓発について」の意見交換の提案があった。議題(3)については、事務局の進行とする。                                                                                                                                    |
| (事務局) | (事務局説明 議題(3) 意見交換について、「ACP(人生会議)の普及啓発について」の提案理由、「看取り場面」における取り組み状況や関連する情報等を説明し、意見交換を依頼する。)                                                                                                                      |
| (委員)  | 病院では、終末期、最終段階をどうするかで関わるが多く、家族の思いが優先し、本人が望んでいたかと思うことがある。元気なときから考えてもらい、医療職も確認しておけるとよい。記載したノートをどうするか、家族が持つ、病院に持ってきてもらうのがよいか、課題に思う。                                                                                |
| (委員)  | 本人が意思表示できないときも、普段の暮らし方やエピソードを聞いている家族は、思いを汲み取りやすく、対話が大切であると思う。現場では、本人と家族の思いが違う、決めきれない、家族が看きれず思いがゆれることも多い。書面に残しても実現できないことも考えられる。事業所での取り組みとして、看取りをわかりやすく伝えるために、3部作の劇を作成し、高齢者を対象に行った。身近なところで話しが聞ける、皆で書いてみようがあると思う。 |
| (委員)  | 看取りの劇に参加したり、在宅介護支援センターの家族介護教室では、人生会議をテーマに講座を行った。ケアマネとして関わる中、本人や家族の終末期、死に対する気持ちはさまざま、どのタイミングで話しをするのがよいのか、書いてもらうのがよいと思う。セミナー等知れたり、書く機会が増えるとよい。                                                                   |
| (委員)  | 安心シートをより多くの人に周知し、安心シートを書くタイミングでノートを書くと思う。本人の思いが書いたものとして残っていると家                                                                                                                                                 |

|       |                                                                                                                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>族は本人の思いを知ることができ、家族のためになると思う。</p>                                                                                                                                                              |
| (委員)  | <p>訪問看護では、契約時に終末期の医療をどこまで望むか、簡単な聞き取りを行っている。ターミナルや医療依存度の高い人は、自分のこととして考えるが、死に直面していない人は、今はわからないと答える人が多く、全ての人にノートが広がるとよい。ただ、本人と家族の気持ちに違いがあったり、書いたものは最後まで残るので、家族の罪悪感につながるのではとの思いもあり、ノートがよいか疑問がある。</p> |
| (事務局) | <p>経験をとおした貴重な意見。罪悪感とならないよう、ACPを含めた啓発の重要性を感じる。</p>                                                                                                                                                |
| (委員)  | <p>人生会議ということばや終活支援ノートの存在を知らなかった。どこにいけばもらえるのか。知らない人も多いのではないかな。</p>                                                                                                                                |
| (事務局) | <p>終活支援ノートは、2019年にさぬき市・東かがわ市で作成したもので、当初は関係機関にも配布。広報誌の掲載や講演会での配布など機会を捉えて周知している。配布は、地域包括支援センターで行っている。</p>                                                                                          |
| (委員)  | <p>人生の終末は、誰にでも、急に訪れることもあるが、自分のこととして自覚していない人が多い。若い人への啓発も必要ではないか。若い人にも書いてもらえるとよい。親の介護をする人が増える50代の人には知っておいてもらいたい。</p>                                                                               |
| (委員)  | <p>終活支援ノートの活用は、ケースバイケースで難しい面もあるが、啓発が必要であると思う。</p>                                                                                                                                                |
| (委員)  | <p>終末期の気持ちは、変わっていくことが当たり前、どうすり合わせていくか、毎回考えることが大切。ノートは、一つのツール、つないでいくものだと思う。事務局には、終活支援ノートの配布数や配布場所、どのように活用されているか等活用状況を把握し、評価につなげて欲しい。</p>                                                          |
| (事務局) | <p>活用状況は把握できていない。ヒアリングなどで実態把握に努め、評価につなげていきたい。本日の意見をもとに、研修部での検討を含め、次年度の事業に活かしていきたい。</p>                                                                                                           |

|       |                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| (議長)  | その他、計画に対する意見や質問はないか。                                                                |
| (委員)  | 8 ページの（ウ）にある地域ケア推進会議の実務者の会、生活支援等サービスの提供体制整備、認知症初期集中支援チーム・認知症地域支援推進員による支援とは、どういう内容か。 |
| (事務局) | 各事業の概要を説明する。                                                                        |
| (委員)  | 実施回数を教えて欲しい。                                                                        |
| (事務局) | 後日、質問いただいた委員に報告することで、了承いただく。                                                        |
| (議長)  | その他、連絡事項はないか。<br>以上で本日の議事を終了する。<br>進行を事務局に返す。                                       |
| (事務局) | (閉会)<br>次回の協議会は、次年度 5 月頃を予定している。<br>以上で、令和 6 年度第 2 回「さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会」を終了する。      |